

## 第4回大井町総合計画審議会 概要

日 時：平成22年6月7日（月）  
午前9時～午前11時20分  
場 所：役場301会議室

出席者：熊沢清会長、植松清治会長職務代理、大澤一良委員、石井勲委員、石原昭平委員、  
風間秀泰委員、川口彪委員、宇多澄子委員、石井律子委員、瀬戸二郎委員、小関哲哉委員、  
石井孝典委員、足立隆充委員

欠席者：橋本淑子委員

事務局：神保政義企画財政課長、湯川博之副主幹、立川悟主任主事

### 1 開会

熊沢会長より開会のあいさつ

### 2 議題

#### (1) 大井町第5次総合計画骨子素案について

<事務局より第5次総合計画骨子素案について資料1、資料2、資料3により説明>

#### 【意見・質疑】

骨子素案P.12(5)公園・緑地の「緑地の保全管理」において、「丘陵地西側の斜面緑地について、地権者に対して管理を要請」とあるのは言葉として強すぎないか。足かせになってしまうのではないか。もう少し言葉を弱めた方がよいのでは。また、前回の審議会を受けて変更した箇所は具体的にはどこが該当するのか。

「緑地の保全」の記載表現については検討する。また、変更箇所については、前回、人材バンクの創設についてご意見をいただいたことを受けて、P.8(3)人づくりの推進の記述を2つに分け、「人材の発掘と育成」には「人材ボランティアの登録」制度について、記述を加えた。さらに、P.9(1)自然との共生でも「地球温暖化対策の推進」の記述を変更し、「地球温暖化関連の情報提供」から一歩踏み込んで、「温室効果ガス削減に関する施策」を推進することを明記した。その他の箇所についても具体的な取り組みの方向性を明記した。

成長戦略の(1)で「湘光中学校等の施設を改修する」とあるが、具体的にはどのような規模の改修をするのか。例えば体育館を建て替えるのか、内部的なものなのか。

特に老朽化がひどいのは理科室や音楽室。起債の関係もあるが、少しずつ改修するより、ある程度の規模で実施することを検討している。建て替えまでは難しいと考える。

人口の減少は始まっているのか。

現在18,000人を少し割ったところ。人口減については、全国的な動向。周辺でも大井町と開成町以外は減少している状況。増加要因としては、流入人口しかない。魅力的なまちづくりによって、いかに流入人口を確保し、人口を維持していくかが重要。

世界的食糧難を考えると、地元で安全で安心な農業をして、食材を提供するといった攻めの農業という姿勢が必要。それが耕作放棄地の利用促進に繋がる。

優良農地の保全が重要。農地がしっかりしていれば対応もできる。

この何年かソフトボール大会が中止となっている。雨天の影響によるものだが、第一生命のグラウンドを借りているため、条件に合わないときでなくなってしまう。健康を計画にうたっているのだから、世代間の交流ができるようグラウンド等も必要ではないか。

大井町の公民館や体育館は、この周辺でも人気がある。しっかりとしたものがあり、駐車場等も充実している。今後は、広域での連携が必要。小田原球場は利用されていないことが多い。インターネットの時代であるから、広域で相互に上手く利活用を図る必要がある。

今現在でも相互利用はできる。

大井町の商工業が活性化しないと町の財源も確保できない。また、最近は大井町に住みたいという若い人が減っている。昔は大井町が人気であったが、その要因を研究してはどうか。

P. 18(1)健康づくりの「健康づくりの推進」では、「予防接種ワクチンの接種率向上」とあるが、現状で低い状態にあるということか。予防接種を期間中に受けていないと喚起の連絡が来るのは助かっている。

湘光中の改修や生垣維持の支援制度など財源の裏付けがされているのか不安がある。P. 12(5)公園・緑地の「公園の整備・管理・活用」では、酒匂川沿いのせせらぎといった公園は載っているが、学校の近くに子どもの遊び場としての公園が無い。

P. 6の成長戦略で(3)相和地域の活性化とあるが、農業基盤整備ができないと専業農家が育たない。最近でも農業をやりたいという人が出てきている。県の農業公社から耕作放棄地の復元に補助があり、参入する施策があるが、相和で農業基盤整備をどこまでやるのか。農業で人口増加はなかなか難しい。分家住宅による増加要因は人口減少の歯止めにはなっているものの、全体としては減っている。

相和地域の農業基盤整備については、道水路などを整備していきたいと考えている。具体の箇所等はこれからの検討になる。

東京航空計器からの寄贈地の活用は検討していないのか。見晴らしも良く別荘地など人口増加に寄与するのは、

当初、東京航空計器の進出によっていこいの村まで道路が通じるという計画であったが、最終的に企業が進出を断念したということで、土地の寄贈を受けた。その土地について活用を考えたとき、現況で傾斜が激しく、投資が多くなる。自然公園的な整備を含めて検討するという方向であり、開発等はこの10年は難しいと考えている。

国や県との関係で、これから具体的に活用するとなった時に、抽象的であっても「活用の検討」といった記述が総合計画にないと効果が半減するのではないか。

成長戦略の(2)の企業誘致の記述において「土地利用の検討・促進」とあるが、一方で、P. 24の(2)商・工業の「総合的な産業施策」には、「インフラ整備等の検討」とある。「検討」では記述として不足ではないか。縦貫道沿いの活用について、開通することに伴い、具体の取り組みが必要ではないか。

いこいの里・相和整備構想は難しい状況であると、高尾を除く6地区で説明会があった。道水路については要望を聞きながら、という説明を受けた。

P. 23(1)農業の「都市と農村交流による農業の活性化」にあるように、以前、県から自治会に大雄山でやっているように、竹林や耕作放棄地を活用した事業への取り組みの誘いの話があった。都市住民だけでなく、自治会が自主的に活動するのも良いのでは。例えば、餅つきのもち米を耕作放棄地で作るのに、町からの補助があると良い。縦貫道沿いの菖蒲園は十分整備できている。菜の花は不興なので、菖蒲園を観光地化する方向に転換しても良いのでは。P. 27(4)生涯スポーツの「スポーツ施設の充実」で「気軽に楽しめるスポーツ施設を研究」とあるが、これからの高齢化社会に対応して、この10年で何か一つくらい具体を出して進めては。また、学校の校庭の芝生化についても検討してはどうか。小田原でもやっていて、砂塵対策にもなり、維持管理もそれほど難しくないと聞いている。

成長戦略の(3)相和地域の活性化については、より住民が夢をもてるような言葉が必要ではないか。また、P. 23(1)農業の「農業環境の保全と整備」に「耕作放棄地対策協議会」の設置が書かれているが実行的な活動として欲しい。

この骨子素案からは夢が見えてこない。P. 8(3)人づくりの推進で、「家庭」の記述が無くなってしまった。今回の修正で幼稚園や学校教育のところに「保育園」が入ったのは非常に良かった。しかし、核家族化が進む中でも家庭教育が重要であり、学校教育だけが充実しても難しい面がある。記述の復活をして欲しい。P. 27(4)生涯スポーツの「スポーツ施設の充実」については、これまで軽スポーツの検討をしてきた。具体的にパークゴルフと明記した方が良い。これを相和地区に整備すれば雇用も生まれ、物産も売れるのではないか。

東京航空計器寄贈地でのパークゴルフ場も検討したことがあるが、傾斜も激しく、維持管理や水路の整備に多額の経費がかかり難しい。その他の場所も検討しており、「気軽に楽しめるスポーツ施設の研究」とあるが、もう一歩進めた中でやっていきたいが、場所や財源の確保の観点から、現時点では「作ります」とまでは断言できない。

成長戦略の(1)で「老朽化した湘光中学校」と書けば、建て替えをすると錯覚する。区画整理やトーヨーボール跡地、酒匂川2号橋も10年以内にはでき、大きな変革のある時期になる。成長戦略は町独自の部分であるから、もっと訴えるものが必要と考える。

区画整理は「金子吉原」とまで入れなくても、酒匂川2号橋からの延伸する道路に関連してという記述の方がよいのではないか。

「金子吉原」という固有名詞が必要と考える。地主に対してはできないならやらないと言うべきである。2号橋に関連して、次に他の場所でやっても良いのではと考える。

全体を見ると、細かく記述しすぎている面があるのかもしれない。これからを考え、悲観論ではなく、楽観論で考えていくことが必要ではないか。

## (2)パブリックコメントの実施について

<事務局より資料4によりパブリックコメントを実施することについて説明。応募のあった意見について町の考え等を次回審議会にて説明するとともに、計画案を諮問する旨説明。>

## (3)その他

次回の審議会を7月15日(木)に、次々回審議会を8月10日(火)に開催することを確認した。

以上